

細川又書

79

明治七年六月五日

寒暖計六十八度

定價金銀

官許

# 朽木新誌

第拾三號

新報社  
發行所

## 緒言

夫レ人廣ク知サレハ遂ニ頑愚ノ謗ヲ免レス智ヲ擴ムル見聞ヲ  
廣ムルニ在見聞ヲ廣ムル新聞ニ如ク者非ス今官許ヲ蒙リ茲ニ  
朽木新誌ヲ創ム太政ヲ始メ里巷ノ瑣談ニ至リ戒ヘク驚ヘク歎  
ヘク喜ヘク悲ヘキノ事見聞ニ隨テ之ヲ刷行シ人々ト共ニ樂テ  
知ヲ廣メハ獨リ頑愚ノ謗ヲ免ル、而己ナラス開明維新ノ民々  
ルニ背カサラン而シテ善ノ取ヘク惡ノ戒ムヘキニ至リテハ皆  
官宜シク注意アル可シ

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

○公聞

別紙之通遊藝規則相定候條從來營業之者ハ免許鑑札  
下渡スノ外右業体ニ紛敷所業決テ不相成候條此旨急  
度可相心得候事

但規則相設候ニ付從來ハ興行規則第七則以來相廢  
候條遊藝教授鑑札返納可致事

明治七年五月十八日

朽木縣令鍋將幹代理

遊藝規則

朽木縣參事藤川爲親

第一則 從來遊藝渡世ノ者ハハ鑑札下渡候條本人姓  
名年齡ハ勿論區名郡村町等詳細取調本月三十一日  
限リ各小區正副戸長ニ於テ三等ニ區別シ與書調印

之上本人同道可願出事

第二則 能相模輕業曲馬芝居狂言等ヲ以テ渡世トス  
ル者ハ一等トシ毎年賦金五圓ヲ、上納可致事

第三則 軍談新家絃歌笛鼓手踊ヲ以テ渡世トスル者  
ハ二等トシ毎年賦金貳圓五拾錢ヲ、上納可致事

但育人ハ賦金上納ニ不及候得共鑑札願受所持可  
致事

第四則 手品硯師越後獅子等ヲ以テ渡世トスル者ハ  
三等トシ毎年賦金壹圓ヲ、上納可致事

第五則 免許鑑札願受候儀事故アリテ數日ヲ不歷休  
業候共壹ケ年分ノ賦金但休業之者ハ毎年二月ヲ期

シ免許鑑札返納可致事

第六則 免許鑑札他人ハ勿論親タリニ借貸決テ不相成其一身ニ限ル事

第七則 賦金ハ六月十二月兩度ニ別紙雛形ノ通正副戸長ニ於テ取束上納可致事

但右雛形罫紙ハ朽木町天野久次郎ハ販賣差許置候事

右之通相定候事

○第五大區五ノ小區芳賀郡赤羽村農 水沼政吉  
其方宅へ本月十二日午後十時頃強盗一人白刃ヲ擄へ押入候處捕獲セシト欲シ組臥セ白刃ヲ取揚ケ候際手

疵ヲ受候ニ付烏御手當目錄之通下賜候事

目錄 一金貳圓五十錢 朽木縣令鍋嶋幹代理

明治七年五月廿二日 朽木縣參事藤川為親

○第二大區三小區都賀郡白栗田村農 大貫新三郎  
其方宅へ本月十四日午後十二時頃強盗壹人白刃ヲ擄へ押入候處賊ノ虚ヲ窺ヒ白刃ヲ取揚ケ其逃走スルヲ追跡シ遂ニ取押へ訴出候段奇特ノ儀ニ付烏其賞目錄之通リ下賜候事

目錄 一金貳圓五十錢 朽木縣令鍋嶋幹代理

明治七年五月廿七日 朽木縣參事藤川為親

右賊ハ同區内上石川村農大森九十郎ナル者ニテ

新三郎宅へ押入候節ハ同類上石川村農柏崎兼八郎ナル者ト同行シ兼八郎ハ戶外ニイミ居タリシガ新三郎ノ膽氣勇猛ニ懼レ忽チ逃走シ上石川村ニ潛匿セシモ直ニ縛セラレ當時兩人共獄中ニ繋ガルハトゾ

右ノ兩人強賊ヲ捕獲抵抗ノ顛末特ニ勢内省へ具申セラレシトゾ

〔江湖叢談〕去ル廿六日縣下倭町ニ八百利ト字セル家ニ繼死スル者アリ其原由ヲ尋ヌルニ是ハ縣下室町篠崎多一郎後妻おいし本年四十歳六ヶ月實家ハ東京本町相生町壹丁目五番地借新炭渡世金澤啓作姉ニテ密藏

十月倭町八百利方ヲ里分ト成シ右篠崎多一郎へ再嫁セシガ主人曰啓作子トハ同商賣ノ事ナレハ以後取引ニ往來スルハ相互ニ油リ合スヘシト此ニ多一郎ノ娘ニおとくナル者本年十七歳五ヶ月時質伶俐容姿美ナラサルモ亦佳妖言好リ治郎ヲ刺殺ス茲ニ後妻おいしノ身啓作商用ニ來リテ投宿ス此三月廿三日ナリ此日浴湯ヲ備ヘ啓作ヲ饗應ス娘阿とく始終奔走シ時啓作ヲ浴室ニ延フ別レ去ラントスルハ啓作忽然春情ヲ發シ頻リニ阿とくヲ挑ミシガ阿とく又約シテ曰今實妻ガ振舞ニ忍ベト曰諾此ニ於テ啓作頻リニ光景ノ進マサルヲ恨ミ更ニ遅シト待侘シカ初待宵ハ專下長キ

ホノナルガ漸々夜モハヤ更ヌレハ浴室庖厨ノ静マルヲ  
度トシ忍ビ忍ヒニ忍ヒリ、阿とくガ寝間ニ至リ見レ  
ハ阿とくモ専ト嬉シゲニナフ啓作君ヲソガッタ妾ハ  
若モ郎君ガ心變リモアラマシカト思ノ外ニ今此首尾  
トウゾ御見捨クダサルナヨ妾ガ身體モ玉ノ緒モ皆ナ  
郎君ニ自由シカラハ八千代カハラヌ玉椿二葉ノ松ノ  
末カケテ妾ハ操ヲ違マジト太睦マシキ寢物語ニ啓作  
ハ氣モ魂モウバ玉ノ夜ノ衣ヲカヘシツ、飽カヌ別レ  
ノ雞ノ音ニ巫山ノ夢ノ駭口カレ互ミニ袖ヲ絞ニケリ  
斯クテ二人ガ涙ナラネト四五日續ク淋雨ニ偶然幾度  
ノ批ヲ交セシガ啓作リク、思フヤウ事故ナクテ留

連セハ却テ思ヒノ川深ミアダシ仇波龍田川空シク浮  
名ヲ流サンヨリシカズ家路ニ立歸リ媒チタノミテ迎  
ヘンニハト心ヲ決メテ立歸リ家ニアリテモ心恍惚折  
柄商用ヲ批テ啓作ガ門ヲ敲ク者ハ是則篠崎ノ手代幸  
助ナリ啓作ヒツカニ歡ヒツ、渡リニ船ヲ得タル心地  
シテ深ク此事ヲ依頼セシガ其場ハ程ヨク答ヘツ、家  
ニ歸リテ主人ヲ語セハ主人モ同商至便ノ故ヲ以テ特  
ク此事ヲ許諾セシガ茲ニ阿とくガ動靜ヲ察スルニ去  
ルモノハ日々ニ照シトヤラ末ダ暮レ果ヌ春ノ日ニ蚤  
吹渡ル秋風ハ滔々性カ故アツテカ親父ノ異見ヲ余所  
ニナシ外ニ約スル縁談ハ同シ朽木ノ八百庄トカ又ハ

百忠トカ云ル家ニテ最早竊ニ心ヲ通ハセシガ啓作ハ  
斯ルコトハ夢ダニモ神ナラヌ身ノ知ラスシテ頻ニ期  
日ヲ促シツ、果ハ阿トクニ相迫リ約束如何ント痴情  
ヲ鳴ラセヒ早クモ變リシ心ナレハ其約束ハ覺ヘナシ  
ト前ノ言葉ニ引替テ飽マテ強ハキ鉄面皮一通ノ策略  
デハ野詮縫レハ解ガタシト種々様々ノ濡衣ヲ彼ノ繼  
母ナル阿いゑニ着セ果ハ媒ダツ人ヲ頼ミ啓作カ其セ  
シ罪ヲ數ヘ忽チ公ヘ訴シガ繼母阿いゑハ許ニ來リテ  
未ダ年経ナキ其中ニ吾弟ノ事ニテ濡衣着セラレ其上  
公ヲ煩ヲハセ申フ皆吾僚ノ不束故命ニ替ヘテ弟ガ罪  
且吾過チヲ謝セントテ書置四通ヲ袖ニシテ五月廿六

日ノ曉ニ告ル錦ノ音ト声諸共ニ黃泉ノ首途南無阿弥  
陀佛ノ六字ノ呪計家内ノ騒キ一様ナラス

### 書置の事

一私八百利里にてゑのさきいんみ付どふゑうぱい  
みて賣買いゑしやれみ付朽木へ参り其せつゑのさき  
多左衛門申みそうちでも東京へ参ればとまるよふみ  
内へとめると申とまり候處折悪しく雨天つくき日  
日びの雨天みて日送み相成候處ゑのさきむすめと引  
合いゑしやれより當人もバうみなりせぬくく當人も  
らへゑくとゑのさき手代幸助と申もゑのさき折候處  
餘り日送れみ相成候まゝ當人とまり五月十日みとま



り五日日のべいし折いろ、主人申又と新左のさ  
き親類四五日留守中日おくりいす内いろ、とど  
まし親類歸り候内どましおき歸りの上當人へ急度や  
るあまふハなり申さづとあいさついし元事左の  
さきお徳とおあすれおあへ無おぞと申ゆいろおよ  
ふみ申事まで引み引られぬ故此あま又ハ手前おん  
るい新叔初八百利穀清外お人とういふ事ありつ、う  
あみてき、あされてもとなしよらち私人別又ハおろ  
ふどのりべつお事貳十りさきお事故あいろり申さ  
づ此事おとくどのいくあうらち申又ハ親類三谷幸  
助どのこうある事ありつ、くち入てくれもせづ私い

のちすくて母上様又ハ源次郎きのうありましむもホ  
とくどお故此ふみ事おふさくあるおも私せんじ餘  
りあさあないとおもへぜい、さんがんねがの被下  
度のるうへりあもの、御座候さく此ふああまを  
り人もありおり申候十年のとさへなら私おいのちみ  
て被下度ねがのあげ

八百利様 穀清様 新叔様御一同様へとのし申上

書置の事

豊次とおむすめおとくどおうらめしやなつうしやよ  
くもこゝろありしぞやせれ故み外の事までつみを  
おびり此うらちハ私いのちをすてるうらちハさんね

んや此うらゐらさずおくもおろきさる八百庄と  
う八百忠とういんまつくよふををしよく源次兩人  
お外の事みてあるよふ元ハと故バあまりおとく  
どのどましよふぐのどの故きちぐへまかりおとふと  
お外小どもへもおとふどののまあついせあまなり  
左のさき豊次様 佐吉様 おとくどお いしより

○書おきお事

此度の一條もななりおふくなり厚へ世話はなり外お  
事みてあるよふ源次郎どのおとくどおと引合其上  
無論の事みてつゝまさせるなればせのもなく内外みな  
り候故此あまハ私いおちをすて、源次郎どのとさへ

も私おいのちまなりとあり此上おせのねういおして  
おおつゝハ私ひとりつゝも御坐候おとくとの兩人  
おつゝ萬之助とおうらめしや親類壹度いよくておつ  
ゝ此つゝ親類壹度母上様事源次郎とお事いよくあ  
の参らせ候

八百利様初メ おくみお おふさお おのさお  
喜右エ門様 おふさお おのさお

今一通ノ書置キアレ共茲ニ贅ス最初ノ書置ハ全ク源次  
郎ノ莫通シテ此ニ至ルノ原由ヲ迷フルカ如シ源次郎  
ハ弟啓作ノ舊名ナルヘシ豊次ト云ヘルモ多一郎ノ舊  
名書中おろよりへつの云々ハ啓作當時ノ細君ナルベ



シ啓作也和茲セシ狀ヲ具シテ公ヘ訴ヘシト嗚呼々々

朽木新誌賛捌呀 朽木萬町三丁目八十四番地 立川 喜平

同 取次呀 太田町下壹丁目 井上林次郎

同 鹿沼石橋町 小林又三郎

同 桐生町五丁目 吉田 錦呀

同 日光中鉢石町 鬼平源一郎

同 足利町四丁目 相場朋厚

同 今市小倉町 齋藤與吉

同 天明江戸町 堀越常三郎

同 小山仲町 市川 清吉

同 宇都宮明神前 田野邊忠平

本局朽木萬町壹丁目六拾八番地 報聞社

壹號金貳錢五厘 編輯人 秋森 蕨夫

前金今號付壹割引 印刷者 磯野 永模